

温泉シリーズもしばらくお休みしていた。さて、今回は岩木山麓にある嶽温泉の話題。岩木山麓には嶽温泉をはじめ、三本柳温泉、百沢温泉、湯段温泉など温泉地が多い。中でも嶽温泉は1674(延宝2)年に発見されたという古い温泉である。宿泊者に雪下ろし

客が滞在する仮設の建物)があったという。それが、1796(寛政8)年になると、もとの温泉地から500間(約1キロ弱)ほどの麓に湯室を作り、近辺に湯小屋が数十軒も建設されたという。それからは時期構わず湯治ができるようになり、大いに繁盛したそ

客が滞在する仮設の建物)ないとして記している。湯治期間中は湯見舞いと称して知人が遊びに来たり、土産物を持ってきたり賑やかであった(『新編弘前市史』通史編岩木地区)。このような湯見舞いの慣行は、長期の湯治が姿を消した現在ではほとんどなくなってしまう。

当シリーズ③で八戸藩士の湯治を紹介したが、弘前藩でも藩士の湯治は許可制で、二廻り(2週間)程度が多かったのも同様である。一方、民衆は比較的自由に湯治に行けたが、嶽温泉の特徴は、利用期間に制限があったことだ。

積雪期(旧暦)の10月半ばから3月までが入湯禁止となるのはともかくとして、理由は不明だが6〜7月も禁止とされていた。お山参詣の時期(8月1日〜15日)も禁止であった。また、入湯可能期間中も天候不順の際には禁止された。岩木山の崇りを恐れたのである。

現在の嶽温泉は通年営業で、もちろん入湯禁止時期もない。春夏はハイキングや登山とあわせ、秋は「嶽きみ」を賞味し、冬はスキーの帰りにと、四季折々東京からいらして欲しい。



幕末期の嶽温泉
(青森県立郷土館蔵「巖木之麓嶽温泉湯壺之図」)

給されるようになったのは、1959(昭和34)年にボーリング泉源の開発に成功して以後である。さて、さらに遡り江戸時代中期、1775(安永4)年の弘前藩庁日記によると、14軒の湯小屋(湯治

必要で、さらに藩士が優先された。1860(万延元)年6月の金木屋日記によると、湯段温泉で、金木屋の家族3名が6間小屋上下2間を予約している。その隣のスペースは板柳の人が予約しており、複数のグループが利用することになって

いた。この年は大いに混雑しており、盆前まで空気が

歴史に見る「温泉」⑧ 岩木山信仰と嶽温泉

中野渡 一 耕

(県民生活文化課
県史編さんグループ 主幹)

藩でも藩士の湯治は許可制で、二廻り(2週間)程度が多かったのも同様である。一方、民衆は比較的自由に湯治に行けたが、嶽温泉の特徴は、利用期間に制限があったことだ。

積雪期(旧暦)の10月半ばから3月までが入湯禁止となるのはともかくとして、理由は不明だが6〜7月も禁止とされていた。お山参詣の時期(8月1日〜15日)も禁止であった。また、入湯可能期間中も天候不順の際には禁止された。岩木山の崇りを恐れたのである。

現在の嶽温泉は通年営業で、もちろん入湯禁止時期もない。春夏はハイキングや登山とあわせ、秋は「嶽きみ」を賞味し、冬はスキーの帰りにと、四季折々東京からいらして欲しい。